Media:HARPER'S BAZAAR
Publish Date : 18th July 2020

BEAUTY

A FLASH OF INSPIRATION

ジャン＝ミシェル・オトニエルが描く、香りの肖像画

ディプティックの新作フレグランスはパリ在住の現代アーティスト、ジャン＝ミシェル・オトニエルとのコラボレーション。その創作背景をオトニエル自身に語ってもらった。

By Yumiko Kizu

ラベルの裏側に描かれた「ルーヴルのバラ」がガラス越しに見える。オトニエル ロザ オードトワレ 100ml ¥21,300 Diptyque

新作「オトニエル ロザ」のラベルに描かれている数珠のようなデザイン。これはルーヴル美術館に所蔵されているジャン＝ミシェル・オトニエルの6点の連作『ルーヴルのバラ』の一点だ。この作品を描くに至ったいきさつは実に面白い。始まりは、ウジェーヌ・ドラクロワ美術館で開催された展覧会だ。

「僕にとって植物はとても重要で、常にインスピレーションやメディテーションの源となっている。この時に出品した僕の作品を気に入ったバラの栽培家が、僕の選んだバラに僕の名前を付けることを提案してきたんだ。映画スターならともかく、とても驚いたね。新しく開発されたというバラの中から、道端で見かけるイヌバラによく似た、花びらの少ないシンプルなバラを選んだ。それが"ローズ オトニエル"。その繊細さ、ピュアな色に惹かれたんだ。その後2019年、ルーヴル美術館からピラミッド建設30周年を記念して、ルーヴルの植物図鑑を制作してほしいという依頼を受けた。すでに僕は2015年に植物図鑑を出していたからね。手始めに、ルーヴル美術館を象徴する花を見つけようと思った。そこで注目したのが、ルーベンスの絵画に描かれていた小さなバラ。なぜならこのバラは愛、フランスの歴史、そしてルーベンスに初めて肖像画を描かせた強い女性を象徴しているから。そのルーベンスのバラのエネルギーを昇華させるべく、書道のように描いたのが『ルーヴルのバラ』なんだ。この作品は現在、ルーヴルコレクションに仲間入りしているけれど、僕のバラもチュイルリー庭園に植えられているんだよ」

『マリー・ド・メディシスとアンリ4世の代理結婚式』。"ルーヴル美術館を象徴する花"としてオトニエルが注目したのは、周囲に散らばるバラだ。

オトニエルが選んだバラ、"ローズ オトニエル"。可憐な見た目に反し、強くクリアな香りが漂う。

ルーヴル美術館の依頼で制作した植物図鑑。右「秘密のしるし植物図鑑」の英訳版が左『魅惑の花言葉』。

PHOTOS: ALAMY, AGLO, © DIPTYQUE

そんなユニークな一枚がフレグランスという形になったわけだが、もちろんその香りにもオトニエルのこだわりが反映されている。

「ベースに僕のバラの香りを用い、ペッパーを加えることによってその香りの男性味と繊細さ、独創性を表現している。これはひとつのアート作品であると同時に、僕の肖像画でもあるからね」 ■

同じ香りのキャンドルも同時展開。オトニエル ロザ フレグランス キャンドル 190g ¥8,900 Diptyque

ウジェーヌ・ドラクロワ美術館の庭園。自身の作品とドラクロワの花の絵画をリンクさせた展示に参加した際、関係者からの提案によりローズ オトニエルを収穫。